

# 薬とうまく付き合って健康と安心を!

今回は、冬場に注意しておきたい感染症についてのお話です。

## 冬場に注意すべき感染症について

### ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症を中心に

「猛暑の夏」が終わったと思ったら「過ぎしやうすい秋」はほんの時分で、すぐに「冬將軍」がやってきてしまいうすです。四季の移ろいが自慢の日本が、二季になってしまいうすで、皆さん地球温暖化を現実問題として感じていらっしやるのでは無いうすでしょうか?

さて、今回は冬場に注意すべき感染症についてお知らせします。この時期に流行するものは、何と言っても「インフルエンザ」、さらに「RSウイルス感染症」、「溶連菌感染症」、そして「ノロウイルス・ロタウイルス感染症」を挙げることができます。「インフルエンザ」については、皆さんよくご存知でしょうからここでは触れませんが、「RSウイルス感染症」は、2歳までに

ほぼ100%の子どもが感染し、人生を通じて何度も再感染する非常にありふれたウイルスで、症状としては、発熱と喘息の様な「ゼーゼー」といった咳が主なものです。乳児が感染すると、鼻汁が出て苦しうす、さらに中耳炎を併発したり、重くなると呼吸困難になってしまうこともありインフルエンザよりも厄介なウイルスと言われています。予防することはなかなか難しく、普段からの手洗いと、感染した場合は周辺の清拭ぐらいいしか手だてがありません。

「溶連菌感染症」は、原因がウイルスではなくて細菌です。症状としては、発熱とイルス胃腸炎に注意が必要なのは、ノロウイルスよりも激しい嘔吐や下痢の症状、発熱もあり、重症化する危険性が高く、ロタウイルス胃腸炎によって毎年数名の死亡例も報告があるほどです。ロタウイルスはウイルスが口の中に入ること感染し、その感染力は強力です。したがって感染を防ぐためには手洗いや消毒などをしっかりと行うことが基本となります。トイレの後や患者の下痢や嘔吐物処理した後は、石けんでしっかりと手を洗うようにしましょう。衣類に嘔吐物が付着した場合は、他の衣類とは分けて洗濯します。水洗いの後、うすめた塩素系漂白剤(5〜10%、次亜塩素酸ナトリウムなら50〜100倍に薄めて使用)で消毒しましょう。また下痢や嘔吐物が乾燥すると、含まれていたウイルスがホコリと一緒になってしまう。乾燥する前に処理するようにしましょう。ノロウイルスと同様に、現在のところロタウイルスに

たくさん発疹が出ることで、症状が軽い場合もあつて、なかなか普通の風邪との区別が難しいうすです。最近では、何れの感染症も迅速診断キットで比較的簡単に診断ができるようになっています。早くお医者さんにかかつて、適切な治療、療養が肝心です。

さて、今回の本題の「ノロウイルス・ロタウイルス感染症」についてお話しします。秋から冬にかけて流行する胃腸炎といえはノロウイルス胃腸炎が有名です。感染すると嘔吐や下痢、腹痛などを発症します。ノロウイルスの発症のピーク(11〜2月頃)を過ぎると、次にロタウイルスの流行(1〜4月頃)に注意が必要になってきます。

「ノロウイルス感染症」の原因となるノロウイルスはなかなか死滅しにくいウイルスで、塩素や熱に対して強い耐性を持っています。食中毒の対策として加熱調理が挙げられますが、不十分な加熱(60度・10分間程度)ではなかなか死滅させられませんが、冬場にノロウイルスによる食中毒が多く発生する原因として、日本では特にこの冬期に旬を迎える食用の生牡蠣が感染源のひとつとなっていると言われています。ノロウイルスは体内に侵入し胃腸内の細胞で増殖してきます。ノロウイルス食中毒で急性胃腸炎が多く確認されるのは、十二指腸、

効果のある抗ウイルス剤はありません。嘔吐、下痢、発熱が続くと脱水症状を起すことがあるため、水分補給をすることが治療の中心となります。特に小さな子どもは体全体における水分の割合が高く、脱水になりやすい傾向があり、入院しなければならぬこともあります。小さな子どもが感染した場合、水分をとらせてもすぐに吐いてしまつたり、尿がでていない時には、早めに病院を受診することが必要です。

さて、前述のとおりロタウイルスに効果のある抗ウイルス剤はありませんが、2011年から日本でもロタウイルスワクチンが使えるようになりました。このワクチンによって、ロタウイルス胃腸炎の重症化を9割程度減らすことができる言われています。現在のワクチン(ロタテック・ロタリックス)は、接種時期を守ること海外でも安全に接種されています。決められた期間内に接種を完了できるように、かかりつけの医師にご相談されることをお勧めします。

「ノロウイルス・ロタウイルス感染症」について基本的な事項についてお知らせしましたが、感染の拡大を防ぐために最も重要なことは、感染者の糞便や嘔吐物などの処理方法とその後の手指の消毒です。手洗いの場合、逆性石けんや消毒用アルコールはあまり効果がありません。物理的に徹底的に洗い流すことが肝心です。汚物の処理については、図解してお示します。消毒に関する疑問点などについては、かかりつけの薬局でのご相談されるといいでしょう。

小腸内の細胞にとりついて増殖するため、体内で増殖した後に糞便や嘔吐物として体外へ排出されます。この嘔吐物や糞便が感染源となり人から人へ感染が拡大しノロウイルスが流行するのです。感染後の潜伏期間は約20〜48時間程度です。「吐き気・嘔吐症状」と「腹痛症状」が代表的な症状ですが、通常は2〜3日程度で症状が徐々に回復し重症化するようなケースはほとんどありません。ノロウイルスは全て経口感染(口からの感染)であり感染者の糞便や嘔吐物などに触れたり、空气中を漂よつているウイルスなどを口から吸い込む飛沫感染によつて感染します。特に乳幼児がいるご家庭では、子どもが感染し嘔吐を繰り返した際の処理や、4歳くらいまでの幼児の場合は坐薬が処方されるケースも多く、坐薬を挿入する際の糞便への接触が感染経路ともなり、親御さんが症状を発症するケースも多く見られます。その為、赤ちゃんが下痢症状を発症している場合などおむつ交換を行う際には、ビニール手袋の着用や、おむつの交換処理後には徹底した手の消毒を行う等、予防対策を行うことが重要です。感染してしまった場合の治療法ですが、現在のところノロウイルスに効果のある抗ウイルス剤はありません。有効な予防接種などもなく、治療に関しては自然治癒力による回復を積極的に考えて安静第一の治療を行うこととなります。治療期間に何よりも注意すべき点としては下痢による

脱水症状を避けるために水分の補給を積極的に行うことです。最近では、効率よく水分を補給するための飲料等も販売されていますから、かかりつけの薬剤師に相談してみるのがいいでしょう。重篤な場合は水分補給を受け付けないこともあります。医師に相談して、点滴によって水分補給と栄養補給を行うことも可能です。

「ロタウイルス感染症」の症状は、ノロウイルスと同じく、「嘔吐や下痢」、「腹痛」などです。症状は非常によく似ていますが、大きく異なるのは感染しやすい年齢です。ノロウイルスは年齢に関係なく感染・発症しますが、ロタウイルスが感染・発症しやすいのは生後6ヶ月〜2歳の乳幼児です。5歳までにはほぼ100%の小児が感染する言われています。大人も感染するのですが、免疫があるために症状が出ないか、もしくは発症したとしても軽い症状で済むことが多いと言われています。さらにロタウ

## おう吐物の処理方法

患者のおう吐物や便には、大量のノロウイルスが存在する可能性があります。感染を広げないよう、処理には十分気をつけましょう。

① 処理を始める前に、使い捨て手袋とマスク、エプロンを着用しましょう。

② おう吐物を使い捨てペーパーなどで拭き取りましょう。

③ ※汚染物として扱います。おう吐物と拭き取りに使った物をビニール袋に入れ、さらに消毒液(1000ppm次亜塩素酸ナトリウム)を加えてから、袋の口をしぼりましょう。

④ 消毒液(1000ppm次亜塩素酸ナトリウム) ※換気してください。おう吐物を拭き取った場所を、消毒液に浸したもので拭いてしばらく放置し、さらに水で拭きましょ。

⑤ 汚染物と消毒に使用したものの全てをビニール袋に入れ、袋の口をしぼり、廃棄しましょう。

⑥ 石けんでよく手を洗いましょう。最低30秒以上もみ洗いしましょう。

※消毒液を使用する際は、お子さんが誤飲しないよう管理に気をつけましょう。  
※消毒液は金属腐食性があります。  
※拭き取った場所が金属の場合は特によく水拭きしましょう。  
※消毒液は漂白作用があります。服などにつかないように注意して扱います。

お薬に関するご相談は…  
**(社)広島県薬剤師会 おくすり相談電話**  
**Tel.082-545-1193 相談無料**  
 ◎受付/10:00~15:00(月~金曜日※祝日、お盆休み、年末年始を除く)  
 薬・たばこなどの誤飲時の応急処置に関するご相談は…  
**(社)広島県薬剤師会 広島中毒119番**  
**Tel.082-248-8268 相談無料**  
 または**フリーダイヤル0120-279-119**  
(ただしご利用は県内から、一般電話と携帯、PHSのみ有効)  
 ◎受付/9:00~17:00(月~金曜日※祝日、お盆休み、年末年始を除く)

